

視 察 報 告

- 1. お茶の水女子大学附属幼稚園 1
- 2. 中央区立豊海幼稚園 9
- 3. 港北幼稚園・ゆうゆうのもり幼保園 15, 21
- 4. せんりひじり幼稚園 32
- 5. あけぼの幼稚園 39
- 6. 認定こども園 Kids まゆみ 45
- 7. はまようちえん 52
- 8. 認定こども園さざなみの森 59
- 9. 福岡教育大学附属幼稚園 68

※ 資料に記載している事項は、現在確認中あるいは調整中の事項を含むため、今後、修正等を行う可能性がある。

1 お茶の水女子大学附属幼稚園(東京都文京区)



学級編成 (2017年4月 在園児数)

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
—	—	—	2クラス 40名	2クラス 58名	2クラス 58名	6クラス 156名

職員

園長	副園長	教諭	養護教諭、 任期付教諭	非常勤講師	事務 補佐員	用務員	学校医 (4校園共通)	学校歯科医 (4校園共通)
1名	1名	6名	各1名	3名	1名	2名	3名	1名

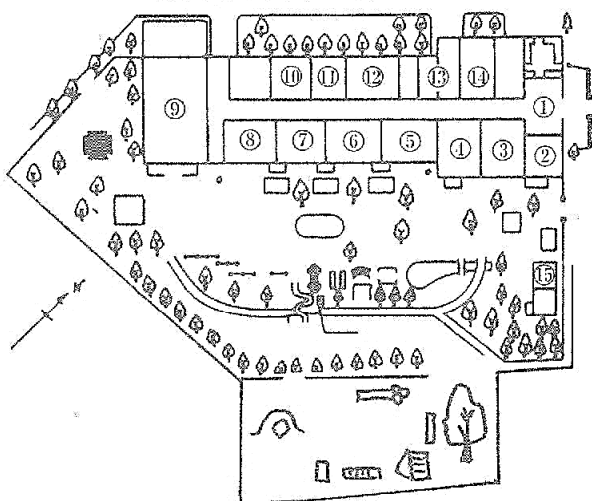
目的

- お茶の水女子大学附属幼稚園は入園した幼児を保育して、心身の発達を助けることを目的とします。とくに、つぎのような子どもに育てようとしています。
 - からだがじょうぶで、元気がよい。
 - 自分のことは自分でする。
 - 友だちと仲よく遊ぶ。
 - ものごとにいきいきした興味をもつ。
 - 思ったことははっきり話し、人の話をよく聞く。
 - 創意工夫したことを楽しんで表現する。
- 本幼稚園は、お茶の水女子大学の附属として、幼児教育の理論と実際に関する研究をします。
- 本幼稚園は、お茶の水女子大学学生にとっての保育、教育の実習と研究の場でもあります。
- 本幼稚園は、研究や保育の実際を公開して、幼児教育の進歩向上に貢献します。

施設概要

昭和6年築(平成26年全面改修)
RC造1階建 延べ1,244㎡

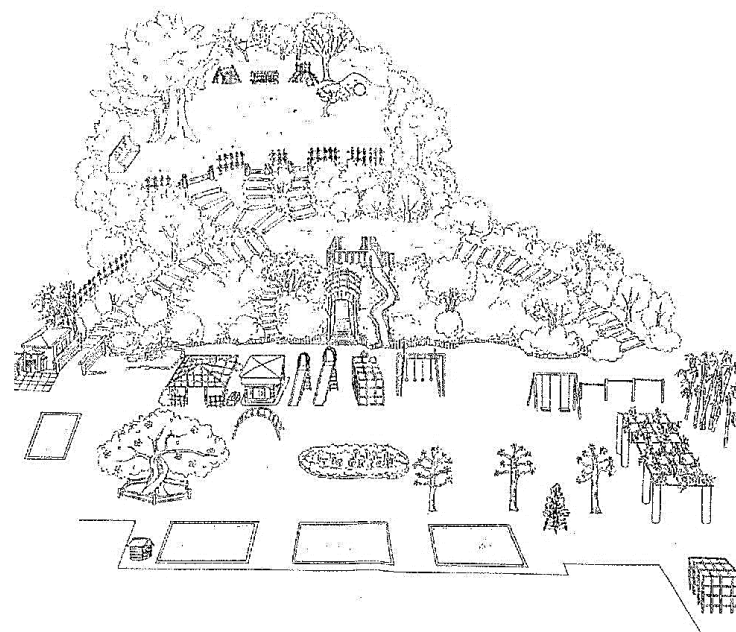
附属幼稚園平面図



- | | | |
|-------|------|-----------|
| ①玄関 | ⑥海の組 | ⑪園長室 |
| ②用務員室 | ⑦林の組 | ⑫職員室 |
| ③森の組 | ⑧池の組 | ⑬手洗所(男・女) |
| ④川の組 | ⑨遊戯室 | ⑭アトリエ |
| ⑤山の組 | ⑩保健室 | ⑮子どものうち |

施設

- 園舎
総建坪 約1,262平方米(約382坪)
保育室(6)・遊戯室・保健室
園長室・職員室・アトリエ
手洗所(男女別・多目的)
用務員室
子どものうち
- 遊園
総面積 約3,300平方米(約1,000坪)



外部・園庭



▲園庭の最上部。奥に見えるのは直径170cmのイチヨウの大木。



▲右の階段と併せて、回遊性を持たせている。



▲バラの家。



▲夏場は水を流して園児達が遊ぶ。



▲砂場。



▲運動会も、この園庭で工夫して開催しているとのこと。



▲すべり台の座面は木製。

内 部



▲玄関近辺に配されたコート掛け。



▲各保育室の入口欄間部分には、その組をイメージしたステンドグラスを配している。



▲保育室。家具はなるべく建設当時のものを使い、モノの大切さを教育している。



▲保育室内の流し。人研ぎは建設当時のものを活かして再利用している。



▲遊戯室（多目的室）。手前に見えているのはビニール製のプール。



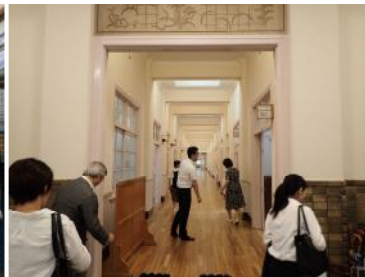
▲職員室。家具で仕切られた奥のスペースは更衣スペースとしているとのこと。



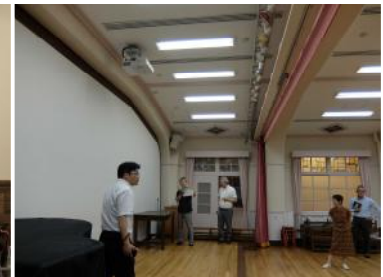
▲トイレブースも、あえて建設当時のデザインを残している。



▲教材保管庫。整然と整理・整頓がなされている。



▲幅3mの広い廊下も園児の大切な遊びのスペース。お店屋さんごっこが始まったり、異年齢間の交流スペースにもなる。



▲遊戯室ステージ。映写機やステージ専用照明などが配置されている。

委員コメント(基礎情報)

- ・2014年3月大規模復元改修工事完了。
- ・自ら選択し広げる“あそび”を中心に自主・自立を促す保育。
- ・9時から徒歩もしくは、公共交通機関を利用して登園し、自由なあそびをコアに11時～12時頃に昼食、降園前にはクラス毎に集まり、13時半までに学年毎に時差降園する。
- ・延長保育はない。入園検定は抽選を中心とし、応募資格の確認を行っている。
- ・大正初期：現園舎への移転にあたり、当時の倉橋園長が園舎の計画に携わった。
- ・保育室の中は年齢に応じてコーナーを設けている。廊下も遊び場。
- ・園庭へ行くのは保育室から直接出る(くつも別)。園庭側はたたきがある。
- ・名札はつけない伝統。園内ではエプロン(デザイン等は自由)をつける。
- ・H13より幼小連携を実施。“かかわり合って学ぶ力を育む” この研究後より3歳→4歳でクラス替え、4歳→5歳は替えない。
- ・ホームカミングデー年に1回、同窓生が集まる日を設けている。(上は80才、下は6才まで) 毎年400～600名ほどが来校

委員コメント(基礎情報)

- ・1876(M9)年 開園。1932(S7)年 現園舎に 建物はH20年に登録有形文化財に
- ・方針:名札無し、名前を覚えて 子どもが主体的に行動(過度な安全面への配慮は行わない)
- ・現在地に建設時の園長であり、日本の保育原理の基礎を築いた倉橋惣三のフレーベル原理、児童中心主義の影響を見てとれる。
- ・9:00-9:15 登園 園長・副園長挨拶 その後 うがい 手洗い 部屋に行き園庭で遊び
11:30-12:30 昼食 遊び 13:10- 集まり 絵本読み聞かせ、集中力を養う 13:30終了

委員コメント（教育面や施設面の工夫・取組）

- ・現園舎は昭和7年に新築した震災復興建築で躯体は強靱。平面計画は中廊下型でシンプルであるが廊下幅や保育室の面積は広く計画されており、天井も高い（改修復元時に天井や壁の設備配管を見直し、新築当時のおもむきとステンドグラスが一層印象的な存在となっている）。
- ・登園靴・上靴・園庭活動靴の3つを用意し、保育室と園庭の行き来をスムーズにしている。園庭は高低差を生かしつつ、固定遊具や花壇、樹齢がある大木や草原（芝生ではない）で構成された豊かな環境を有し、運動会も園庭を工夫して利用している。
- ・園庭・園舎には死角もあるが、研修や研究を通して、情報共有や保育者の能力を高め、小さな怪我を許容しながら子どもの危険回避能力の涵養を促し安全の確保や保育の充実を図っている。
- ・家具は創設当時から大切に引き継がれ保育や生活の中で使用されている。また、大切にすればかりでなく、家具の特徴をいかし子どもの生活や活動に身近に取り入れられる様に、椅子や机の使用方法を柔軟にする工夫をしている。
- ・流し台は衛生器具を交換しつつ、保存活用している（トイレは全面改修）。暖房器具は改修前から温水循環式のラジエターによる輻射式暖房により熱の刺激や偏りの少ない暖房方式がとられており、現在も継続して採用している。
- ・保護者会の活動が活発で、複数の委員会や保育支援を行っていてPTA室は管理エリア側に確保されている。
- ・通園手段は保護者付き添いの徒歩や交通機関を使用した送迎で、年長は玄関まで、年少年中は保育室までの送りとなり、帰りの引き渡しは玄関にて行っている。玄関やコート室は広く配置され、園舎の環境をいかした送迎方法となっている。
- ・子どもが建物や家具など、本物（質のよい環境）に触れながら生活する経験を大事にしている。

委員コメント（教育面や施設面の工夫・取組）

- ・地形を生かし、勾配のある変化に富んだ園庭に恵まれている。
- ・改修時にバリアフリーや扉の安全性を改善した。
- ・古いものも残す（人研ぎ流し、丸いドアノブ、ひねる蛇口など）
- ・行事、もちつきなど、季節の伝統のものを行う。運動会も現在は園庭で行う。
- ・ステンドグラスは子どもたちの映像としての記憶になっているのではないか。光のさし方、色の変化に何かを感じているのではないか？
- ・朝：玄関で園長、副園長が出迎える。担任は保育室（9:00～9:15）
- ・毎週水曜、園内研究会を実施。教員間の情報共有を重視。
- ・外壁はスクラッチタイル張りの平家のコンクリート建築で中廊下式、天井も高く、スケールのにもいわゆる幼稚園らしさはないが、調度品のスケールが子どものスケールに合わせたもので、違和感はなく、天井の高さとともに落ち着きを与える。またステンドグラスの「うみ」「やま」の文様のアートが子どもの感性に働きかける（卒園してから記憶に残っている話を聞いた）。
- ・園庭に直接部屋から出られる。園庭は平坦部は真ん中に花壇があり、その周りを運動会のトラックとして周る。そこから南側に斜面地となり、滑り台など遊具はその斜面を活用して設けられ、斜面の上の広場は自然の草っ原に、樹齢300年（？）ともいわれるイチヨウの大木といった、都会の中でそうめったに触れられない自然環境が残されている点は子どもの自然との触れ合いに適した環境と言える。ただし、現在の保護者たちが、虫に刺され、泥んこになりながらも思いっきり子どもが遊ぶ環境に好んで我が子をおいているとしたら、保護者の理解を十分に得ていることを示す（実際はどうか？）。斜面地を駆けずり回することは体幹を鍛え、身体の成長にもよい。
- ・保護者は入り口ロビー脇の元コート掛けの部屋を待合室として利用する。

2 中央区立豊海幼稚園(東京都中央区)



学級編制

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
—	—	—	4クラス 85名	3クラス 83名	3クラス 76名	10クラス 244名

職員

園長	副園長	主任教諭	教諭	講師	用務主事	園医
1名	1名	1名	9名	11名	2名	4名

教育目標 げんきな子 やさしい子 がんばれる子

今年度の重点目標

重点目標1 心身ともに健康な子どもを育てる。

○新園舎の環境を生かした運動遊び・基本的生活習慣の確立・諸文化に触れ親しむ体験

重点目標2 好奇心旺盛に遊びや活動に取り組める子どもを育てる。

○植育の推進・試行錯誤や表現の喜びが味わえる経験

重点目標3 人とのかかわりを楽しめる子どもを育てる。

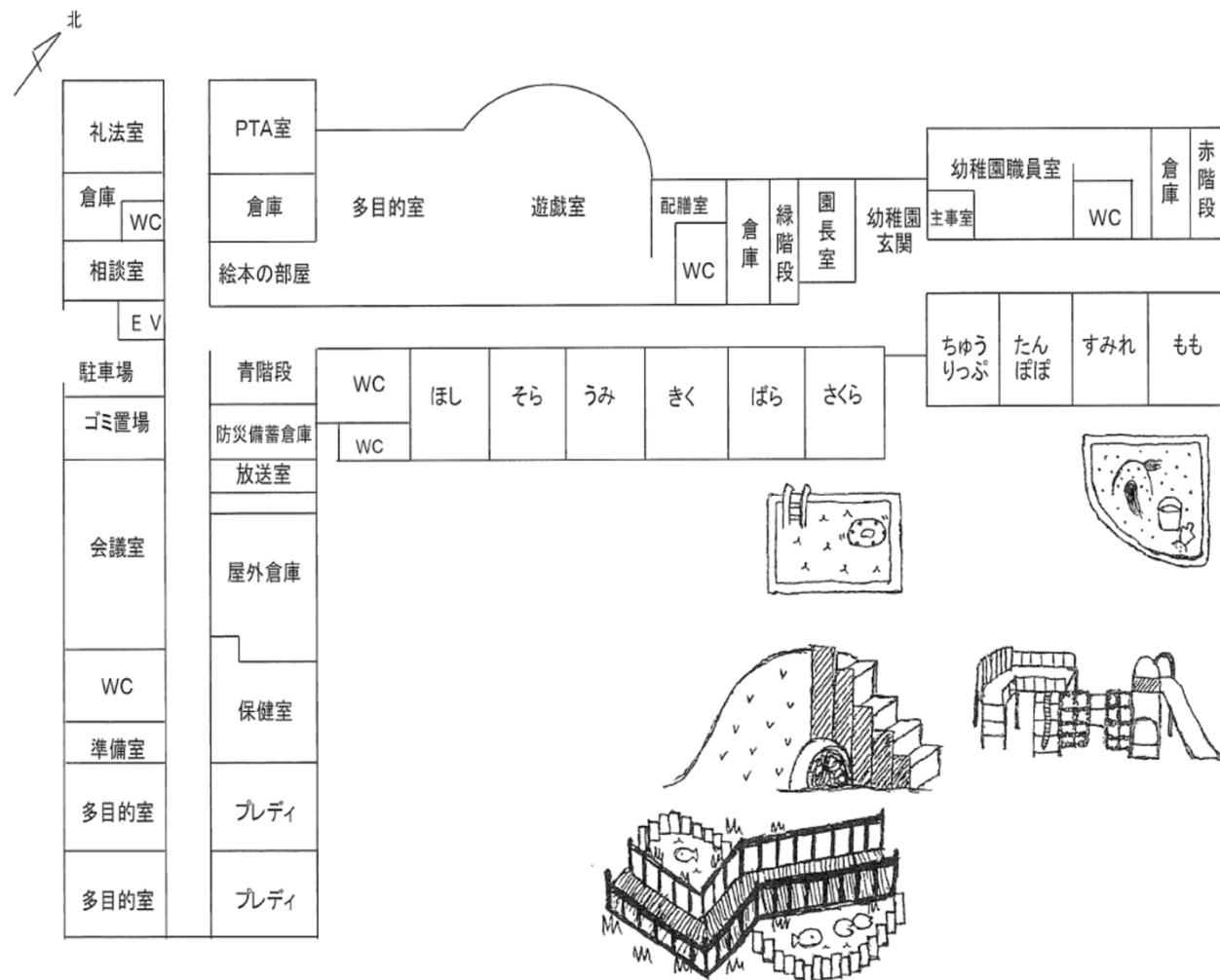
○大規模園の利を生かした活動・異年齢交流・地域や他校種との交流

施設概要

平成28年築

RC造 地上5階地下1階建(幼稚園は1階部分)

延べ14,189.10㎡(幼稚園は2,153.14㎡)



外部・園庭



▲保育室前の手洗い場



▲幼稚園用プール



▲複合遊具とかまどベンチ



▲手前側の緑ゾーンが幼稚園用の運動場



▲校園庭の一角に設けられたプランターでは、
トマトやきゅうりなどを栽培



▲ビオトープ

内部



▲玄関脇の主事室、反対側には園長室を配置



▲廊下幅は3m



▲保育室



▲保育室内の流し



▲絵本の部屋



▲礼法室、熱源はIHを採用



▲トイレ（男女兼用）、奥は幼児用更衣室で職員室とつながっている



▲器具庫



▲職員室、手前の薄緑席は非常勤職員用スペース



▲職員室奥に設けられた保健室



▲一体的に使用できる多目的室と遊戯室、用途に応じて分割可能



▲最上階に配置されたランチルーム

委員コメント(基礎情報)

- ・小学校との複合施設であり2016年に改築工事完了(園児・児童の急増による)。9月1日から教育活動開始。
- ・年少4クラス、年中・長3クラス、計10クラス編成、今年度244名在籍、教育職員27名の都内公立幼稚園一の規模。
- ・生涯における人間形成の基礎や心豊かにたくましく生きる力を養う。
- ・9時登園し自由あそびをコアに10時半頃片づけ後クラス毎の活動に。11時半から12時頃に昼食準備をし、昼食後自由あそびとクラス毎の全体活動の後、13:40~14:00に、学年毎に時差降園。
- ・自園では預かり保育を実施せず(対応可能)。防災拠点施設としての位置付けを含め、地域や保護者との交流に力を入れている。

委員コメント（教育面や施設面の工夫・取組）

- ・中廊下（約130m）の1階に10室の保育室と絵本の部屋、礼法室（和室茶室）、多目的室、遊戯室を配置している。教材室は4室確保され、保育活動の環境整備に努めている。
- ・絵本の部屋や多目的室を合理的配慮を要する園児の保育や支援にいかしている。
- ・保育室は余裕をもった面積を確保し、多目的室と遊戯室の展開性に配慮し、可動式のステージの高さを巧技台の高さに合わせる工夫など、細部まで配慮がなされている。
- ・改築時に前校舎（園舎）の反省をいかし、幼稚園と小学校スペースのゾーン分けを図りながら、児童間交流が有機的に機能する様配慮された計画となっている。特に屋外環境は園児や保護者の動線から明確にゾーン分けされており、植栽や固定遊具、菜園などは教育・保育活動にいかされるものとなっている。
- ・上部階3m程のバルコニーが1階幼稚園部分の庇となっており、雨天時の活動や保護者の送迎時に有効にいかされている。
- ・3歳児のトイレは十分なスペースとベンチが用意され、安心して排泄できる環境となっている。
- ・小学校との会議室の共有や管理職の毎朝のミーティング、職員玄関（小学校職員室前）の共有を通して日常から連絡・交流が円滑になされ、児童間交流とあわせ、幼小接続を充実させる環境が整っている。
- ・保護者の動線や保育室への視認性などに配慮されている。